

「健康寿命」を伸ばす ソリューションの検討

2022年度 AIIT修了生コミュニティ

大森・大塚・黒江

研究協力者：高橋・三上

アドバイザー：田部井 助教

活動概要とコミュニティ構成メンバー

● 活動概要

- ← 認知症予防など、健康寿命を延ばすソリューション検討プロジェクト活動を実施
- ← 認知症の現状への理解を深めるため、日本神経学会の「認知症疾患診療ガイドライン2017」をメンバー全員で読み解くとともに、「朝日新聞認知症フレンドリー講座」を受講
- ← 研究対象を、品川区の八潮団地に決定し、現地で開催されている認知症カフェの見学、区の担当者へのヒアリングを行った。調査結果を元に、メンバーそれぞれで課題の抽出、及びソリューション案としてまとめた

● 修了生コミュニティ構成メンバー

← メンバー

- ↓ 大森亜紀 2022年 事業設計工学コース修了、 2022年 履修証明プログラム 健康寿命デザイン講座修了
- ↓ 大塚武 2022年 事業設計工学コース修了
- ↓ 黒江卓哉 2021年 情報アーキテクチャコース修了、 2022年 履修証明プログラム 健康寿命デザイン講座修了

← 研究協力者

- ↓ 高橋真理 AIIT客員研究員、 2022年 履修証明プログラム 健康寿命デザイン講座修了
- ↓ 三上道彦 2022年 履修証明プログラム 健康寿命デザイン講座修了

- ← アドバイザー： 田部井賢一 助教

ライトニングトーク大会 ～健康寿命延伸をテーマに～

2022年4月28日、5月5日開催

- 自分が面白いと思っているテーマと、その「新規性」、「独自性」を中心にライトニングトーク形式で各メンバーによるプレゼンテーションを実施

発表者	タイトル
大森 亜紀	首都圏の単身者が外に出たくなる仕組み作り
三上 道彦	音楽の力で認知症高齢者と地域のつながりを築く
大塚 武	認知症の進行抑制・記憶保全のソリューション化
黒江 卓哉	コミュニティ活動案（研究・コミュニティ活動支援・アプリ開発支援）
高橋 眞理	健康寿命や認知症に関する意外にわかっていなかったこと

認知症ガイドライン輪読会

2022年6月4日、6月19日

● 目的

- ← 今後の議論・活動に必要な認知症とその周辺知識を把握
- ← コミュニティメンバー同士のコミュニケーションの活性化

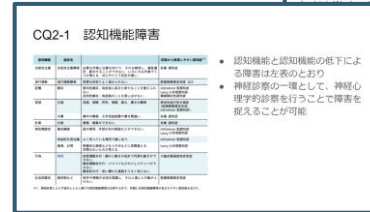
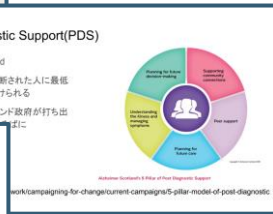
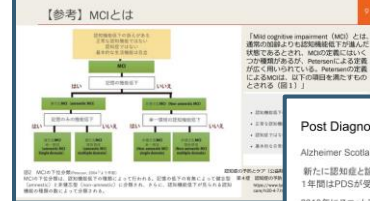
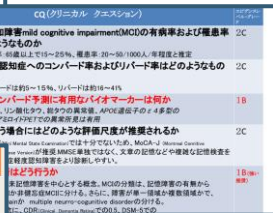
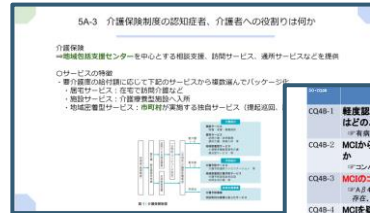
● 形式

- ← 認知症疾患診療ガイドライン2017の基礎部分である1-5章の輪読
- ← 担当者

- ↓ 第1章 認知症全般：疫学、定義、用語（大塚, 6/4）
- ↓ 第2章 症候、評価尺度、診断、検査（三上, 6/4）
- ↓ 第3章 治療（大森, 6/4）
- ↓ 第4章 経過と治療（高橋, 6/19）
- ↓ 第5章 認知症の本人や家族を支えるための諸制度と社会資源（黒江, 6/19）

● 成果

- ← 輪読により短期間で効率的にガイドラインのポイントを把握
- ← それぞれの知識を共有することでコミュニティ文化を醸成



コミュニティ方向性検討WORKSHOP

2022年10月2日開催

<Agenda>

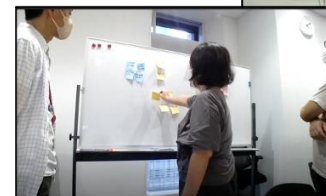
- 上期の活動振り返り～下期に取り組みたいテーマを持ち寄り
- 各自テーマの相互理解を行いつつ、共通項を括り出し、チーム全体のテーマを設定

<議論>

- 引き続き認知症及びその予防についての状況把握が重要
 - テーマを絞り込んだ上で、先行研究調査・ステークホルダーとの関係構築を行う
- 孤独・孤立予防は今後少子高齢化が進む日本で重要なテーマ
 - 首都圏の「孤立予防」の観点から、高齢者コミュニティのあり方・アプリなどによる会話支援・就活支援
 - 孤独解消のためのコミュニティ再生・認知機能維持・向上のための介護保険外サービスの検討
 - 日本初となるようなアプローチ。家族や周囲の人ではなく、本人に対してのサポートを軸に
- 現役世代が今後高齢化し問題が顕在化・重大化することを踏まえたソリューション提案
- AIITならではのテーマの絞り込みを行う
 - 品川区から「八潮団地」認知症対策の検討依頼も来ているため、我々コミュニティとしても取り組みやすい

<結論>

- 八潮団地、及びそのコミュニティ再生に関する先行研究を調査し、ソリューション提案に繋ぐための議論を実施する



ケーススタディ「八潮パークタウン」でのソリューション検討

2022年10月～

八潮パークタウンに関するステークホルダーへのヒアリングや、
現地視察を通じて課題の抽出及びソリューションの検討を実施。

「八潮パークタウン」とは

1981年（昭和56年）に都市計画決定、

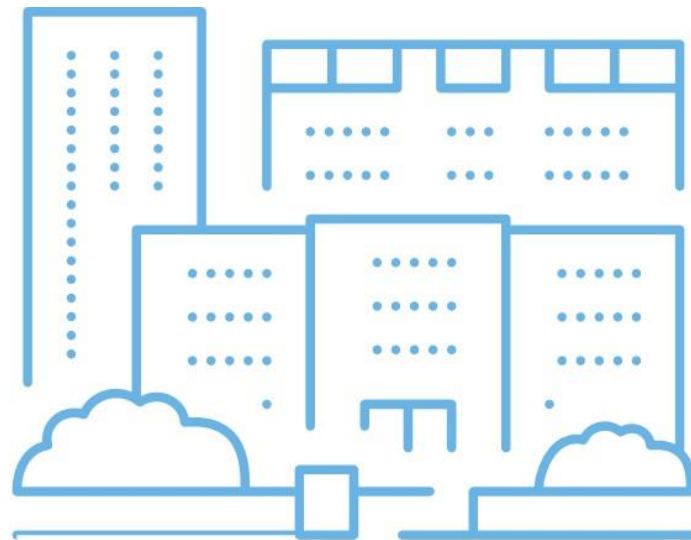
中高層の集合住宅約5500戸（UR、都営団地）

2011年（平成23年）学校跡地に「こみゆにていぷらざ八潮」

「八潮南特別養護老人ホーム」開設

→40年で人口構成が変化、高齢化が進む

- ・緑が多く整備され住環境は良いが、買い物はやや不便
- ・介護施設などが整備されつつあるが、住民同士の繋がりが薄れつつある（自治会の祭り消滅）



認知症カフェ&運営者ヒアリング

2022年10月10日実施

● 認知症カフェの内容

- ← 月1回コミュニティプラザで開催
- ← 内容は観劇や合唱、体操等皆で楽しめるもの
- ← 参加者に制限はなし
- ← 本来は認知症に関して本人や家族のお悩み相談会が開催したかったが、できていない

● 認知症カフェを始めたきっかけ

- ← 八潮エリアで廃校になった小学校の跡地利用
- ← 八潮エリアにあった29の自治会が協議し、建物の一部を認知症カフェとして利用することになった

● 運営母体はNPO法人

- ← 自治会の有志が集まりNPO法人を設立、認知症カフェを運営することに
- ← ただし、運営メンバー皆の志を統一することは難しく、なおかつメンバーの高齢化が進んでいる現状がある

● 認知症カフェ運営上の悩み

- ← 参加者の誰が認知症かわからないので踏み込んだ対応ができない
- ← カフェでの催しが認知症に対して何かの役にたっているという実感が得られない
- ← 認知症地域支援推進員にならないと認知症の人に積極介入はできない



画像出典：

品川区「こみゆにていぷらざ八潮（区民活動交流施設）」より
<https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/shisetsu/shisetsu-bunka/shisetsu-bunka-bunka/shisetsu-bunka-bunka-komyupura/>

朝日新聞・認知症フレンドリー講座


2022年12月25日実施

「認知症」の当事者の人たちの「思い」や「見ている世界」を伝える体験講座

- ・ 当事者のインタビュー映像
- ・ 専門医の監修と朝日新聞の取材力
- ・ 認知症の特性を踏まえ、世界の見え方をVR体験

「認知症」に対する誤解や偏見への気づき

= それでも、人生は続く。暮らしやすい社会とは？

 認知症フレンドリー講座
認知症を「自分事」として
“体験する” “考える”



 ともに考え、ともにつくる
朝日新聞

<https://dementiavr.asahi.com/>

品川区役所福祉部担当者インタビュー

2023年2月8日実施



● 現行課題



- 高齢者をグループ化した集団対応であった行政は縦割りで横の連携が難しい
- 民間ではどんな高齢者居場所づくりができていないかの把握ができていない
- 高齢者デジタルデバイドの解消に動けていない

● これからの重点姿勢



- これからは個人対応が必要
- 高齢者の居場所づくりが重要
- 地域が高齢者を緩やかに見守る体制が一番！
(品川区の組織づくりが必要)

取り組みたい例

品川区



AIIT

デジタル

八潮団地

♪ 音楽体操



見えてきた課題

● 急速に進む高齢化

- ← 単身生活者・高齢夫婦のみ生活者の急増
- ← 利便性や子育て環境の未整備により若者が定着しない

● 病院・介護サービスの不足

● 設備の老朽化

- ← エレベーターなし建屋が多数残存など、進まないバリアフリー

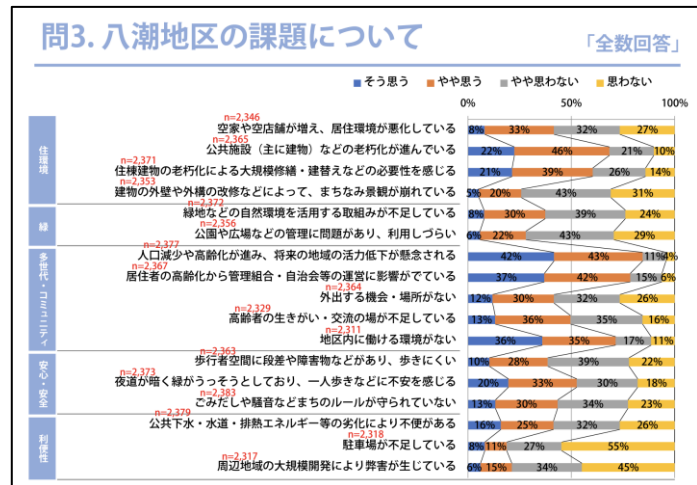
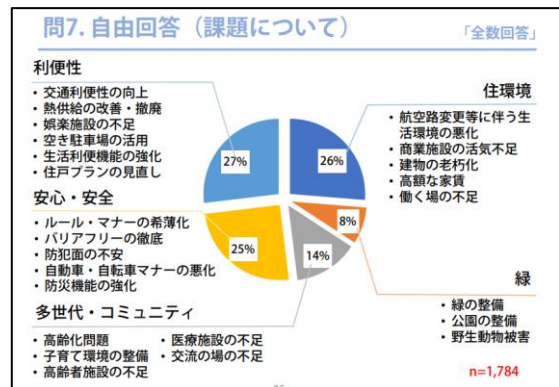
● 相互扶助のためのコミュニティの弱さ

- ← 高齢者にとって頼りになるコミュニティの不足

● 利便性の悪化

- ← 商業施設の撤退など

高齢者が安心して暮らせる環境づくりが課題



八潮五丁目地区まちづくりワークショップの実施状況について
<https://gikai.city.shinagawa.tokyo.jp/wp-content/themes/shinagawakugikai/pdf/2022.05.16ken01.pdf>

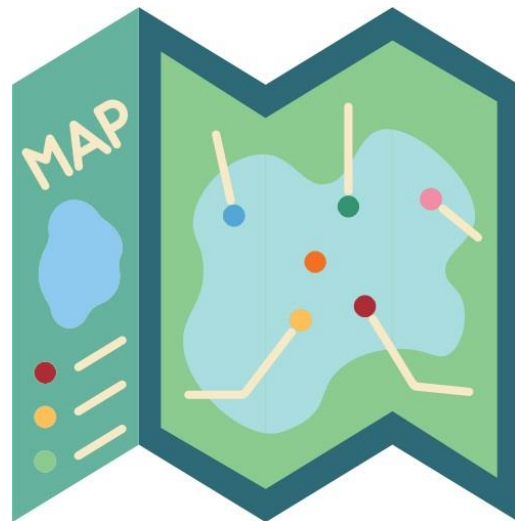
地域「資源」の可視化とマッチング

<課題>

- 扉の中の密室：団地に住む人の状況がわかりにくい
- サービスの散在：行政・民間主体別で提供
→ 「不安」な時に相談できる先が見えない

<提案>

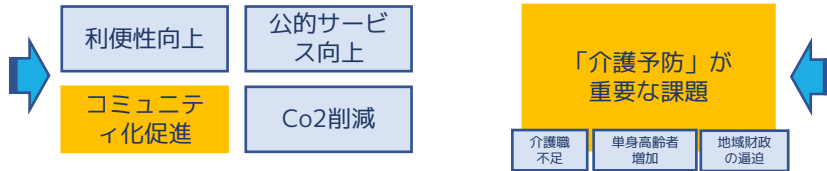
- 各サービス提供者が書き込める地図プラットフォーム
- 団地の「お節介さん」をアプリで可視化



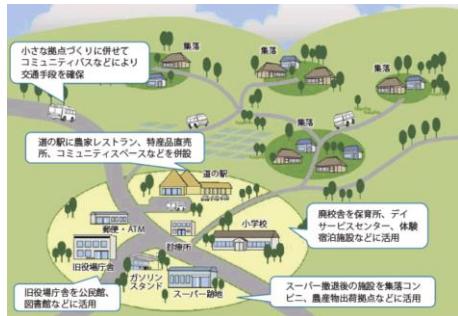
ソリューション提案②

コンパクトシティで効果を発揮する認知症予防ソリューションの検討

コンパクトシティ
=人口減少・高齢化の
効果的なSolution



地域包括ケアシステム
= 高齢者の尊厳の保持・
自立生活の支援を地域主
導で実現



国土交通省より

国主導で、今後コンパクトシティ化は加速

THEME

典型的なコンパクトシティと言え
る環境の八潮団地をモデルに、
横展開可能な介護予防
(特に認知症予防)のアプリケー
ションを模索する

持続可能 C2C 横展開可能 導入が容易

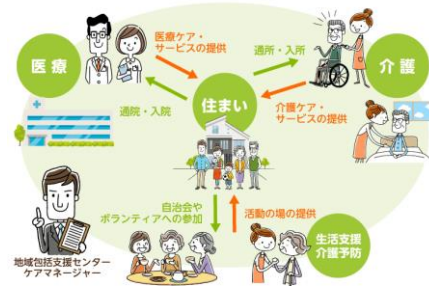
活動のゴール

- ・仮説立案・POC実施
- ・サービスモデル化
- ・自治体へ提案～パイロットPJ化

MCIの早期発見
と、認知トレー
ニングによる
早期予防
プログラムの
導入

認知症予備軍を早期に洗い出し、認知症へ進行させないためのプログラムの実装・評価。併せて、地域住民への認知症への啓蒙活動を実施

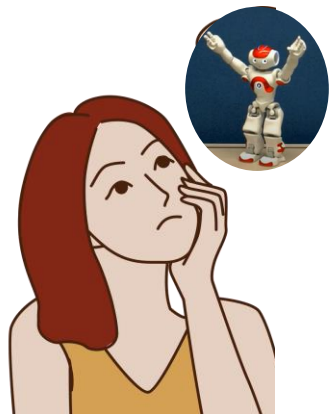
地域包括ケアシステムのイメージ



厚生労働省より

サービスの主体を国→自治体へ
サービス提供を徐々に公→私に

ソリューション提案③ 八潮団地をモデルにしたロボットとの共存社会の模索



ロボットとの共存社会

■ 隔対話機能※ロボットの遠隔操作



八潮団地をモデルに

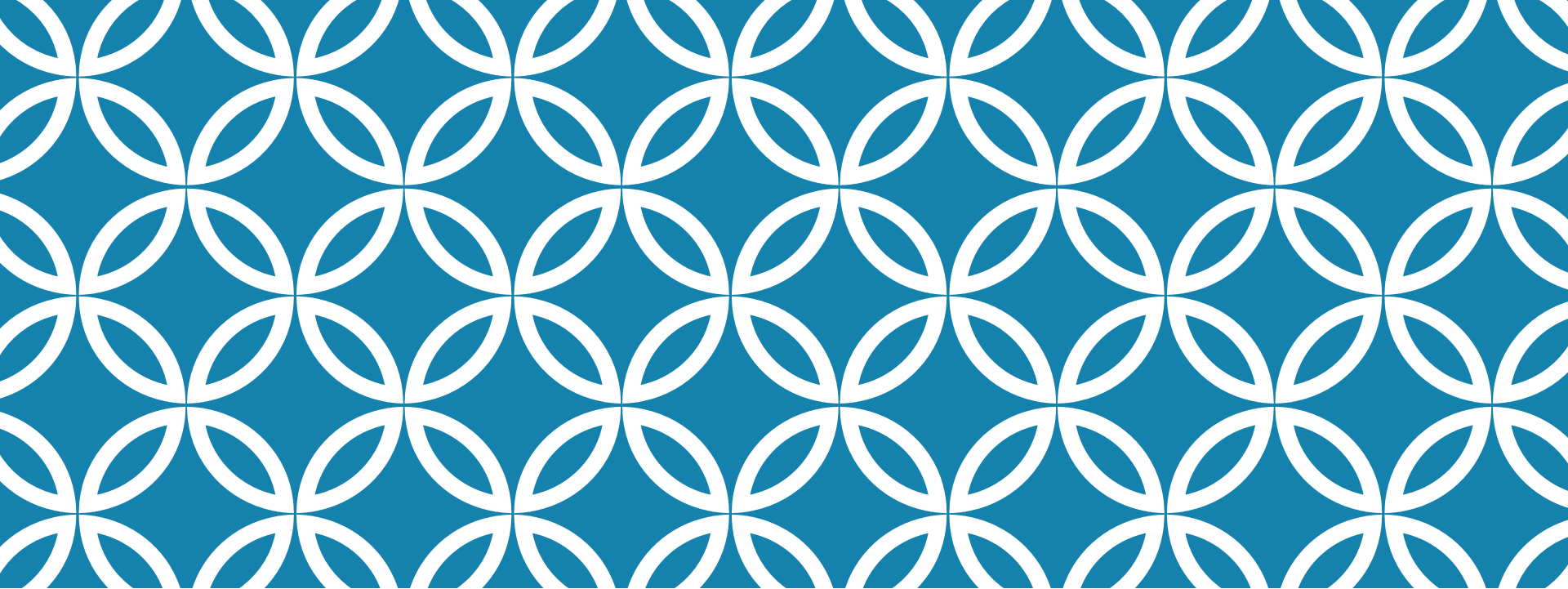
品川区



AIIT

今後の展開

- 2023年度も引き続き「八潮パークタウン」での健康寿命延伸ソリューションの検討を実施予定
 - ← 修了生コミュニティによる形式から、AIIT研究所の研究活動として実施方向で調整中
 - ← フィールドワークを中心とした研究活動を行いつつ、ソリューションとして世の中に出していくための検討を加速する



END OF DOCUMENT

